

エスペランティストはプラハでオバマさんより先にアーモを叫んどったんやで

わしら、おてんとさんのもとにエスペラントを盛りあがらさせたら、いろいろやっとなねんけどな。ここに書いてあることをやな。国をまかされている人たちにな。国ゆうたかて、すべての国やで。それから国ざかいこえていろいろやっではる集まりやら、ええことしたいなて考えてはる人たちにやな。みんなに見てほしいねん。

ここに書いとおることのためやったら、なんぼかて働いたるで、つう固い思いを、はつきり言わさせてもらいますわ。

ほんで、ひとからげでも、お一人さんでも、わしらががんばつとおることに入っておいでやあて、声かけさせてもらいますわ。

エスペラントはな。キリストさんの暦で、ちとせと、やおやそななつの年に、くにざかいこえた心のやりとりのためになんとかしたるゆうことばやでえって、お披露目したんや。ほんで、あつというまに、生き生きしとって、細かいことなんぼでも言えることばになつてもおてん。ことばやら、ならわしやらの違いこえて、人様くつつけて、もう、ももとせをこえてんねんで。そのあいだ、エスペラントしゃべる人のころざしは、たいしたことあらへんやんけ、遅れてるやんけ、早すぎるやんけ、ちゆうことには、まったくなつてへんねん。いくつかのどこかのおくにことばを、おてんとさま照らしてるところの隅々まで使わせたかて、あかん。なんぼ「やりとりのたくみ」がよおなつたかて、あかん。ことばの新しい教え方が出てきたかて、あかん。ほんなもんでは、まともでうまいこといく、ことばのあるべきありかたのために、わしらがかなめやと考えていることは、とてもやないけどできるわけあらへん、としか、みえへんのですわ。

ひとつ たみによるまつりごとの世

心のやりとりのしくみが、生きてるあいだ、どこかの人たちだけにえこひいきしとんのに、ほかの人たちは、いくとせもかけて、しんどいことせならんくて、ほんでたいしてよおならんのやったら、根っこから「たみによるまつりごとの世」に刃向かっていることにならしまへんか？ そりゃあ、エスペラントかて、どのことばもせやろけど、まったきものでは、あらしまへん。せやけど、等しく世の中でやりとりしたるゆう、俵で囲んだ丸い中で組み打ちすんのやったら、ぶつちぎりてっせえ。

わしらが言いたいんはやで、ことばのあつかいが等しうなかつたら、やりとり等しくならへんやん。くに越えたところでもそうですやん。わしらのやっではることはやな、たみによるまつりごとの世のやりとりのためなんや。

ふたつ くにざかいをこえた教え

どの民のことばも、きまったならわしや、民が成しているやからに結びついているやんか。たとえばやな、学び舎でアングルことばを習っている子は、アングルことばの国々の、ならわしやら、そこでの山、川、原、海、町、村、道やらなんやらすべてひっくるめてどこにどのようにあんのかゆうことやら、そこでのまつりごとのやりかたやらを、学ぶことになるわけやんか。そのなかでも、北アメリカでくにが

集まって国を成していると名乗っているあのどえらい国やら、イングランドとウェールズとスコットランドとアイルランドの北のかけらを、イングランドの女の君がよつつとも等しくいっしょやでえというたてまえでひとつの国みたいになっているあの国が、せやんか。そこへくると、エスペラントはちゃうねん。学び舎でエスペラントを学ぶ子は、さかいのない世の中についてまなんどるわけや。どこの国がて、我が家のようなもんや。

わしらが言いたいんはやで、どこのやからのことばで教えたかて、おてんとさんの照らしとるすべての世の中については見立てが限られてまうゆうことやねん。わしらのやっとなることはやな、くに民やからを越えた、教えのためなんや。

みつつ 教えこむのにうまいことやれること

よそのおくにことばをものにしようとやっとなる人のなかで、ものにできる人ってほんまにわずかなもんやんか。エスペラントやったら、ひとりきりでやったかて、ケチの付けようがあらへんくらいまで、ものにできるで。いろいろ調べたらな、あらかじめエスペラントやっとなら、ほかのことばやんのものにも効き目あったんやて。ことばって、どないなつとんねん？ てあたまの中で形作っていくことすんものにな、そうゆうの教えようとしているところの、まんなかにな、エスペラント持ち込んだらええでえ、て、ゆうてはる人もおんねんて。

わしらが言いたいんはやで、やからことばであるかぎり、どないしても難しいし、難しいつつうことは、学ぼうとしてはる、ぎょうさんの人たちが困ってしもてるやんかあ、ゆうことやねん。ほんまやったら、ふたつめのことばを知ったらそんで、ええこと色々あつてしかるべきやんかあ、とゆうことや。わしらのやっとなることはやな、うまいことばの教え方のためなんや。

よつつ ことばがひとつだけやあらへんこと

なかまの誰もが、ふたつみつつもしくはよつついつつ...ちがうことばをしゃべる、わしらの星のすべてにまたがるいたるところにいる、ことばなかま。そんなんめつたにあらへん。そのめつたにあらへんひとつが、エスペラントなかまや。なかまやったら、少なくともひとつは、よそのことばを、しゃべれるところまでは、まなばなあかんて、それ受け入れとんねん。ひとつきりやないことばを知ることできるようになるし、よおけあることばってええなあて思うようになること多いし、そのままやったら見えんかった広い己の果てまで見えるようになっていくんやで。

わしらが言いたいんはやで、ちっこいやからのことばのもとであつても、でっかいやからのことばのもとであつても、すべて、なにかしらのことばのもとに生まれた者がやな、ふたつめのことばをやな、高い趣きまでもやりとりできるまでにやな、ものにできるゆう夢が夢に終わらへんところまでいかなあかんやろ思てんねん。わしらのやっしていることは、そういうことがほんまにできるときを与えてあげたいがためなんや。

いつつ ことばで許されなあかんこと

ことばのあいだの力に違いがあるゆうことは、ことばがこの先どないなるかわかりまへんで、つう、お墨付きを頂くつつうことや。それが、ことばがことばに、もろに踏みつけられとるつつうことや。世の中のほとんどの人にとっては、そういうこと

や。エスペラントなかまやったらな、でっかいことばの人も、ちっこいことばの人も、おおやけのことばの人も、そうでないことばの人も、おたがい譲り合ったろ思て、力がどうのこうのがありえへん、いさかいのないところに、集まってきとんねん。この、あたりまえにして許されなあかんことと、あたりまえにせなあかんことの釣り合いはな、ことばで強い弱いあることとか、ことばでいさかいおこしたりしてることにな、なんとかしたろゆう、なんかそんな今までとは違う考えを、育てていったり、うまいこと扱ったりすんのに、こんなんあんねんけど、どや、て言えるやんか。

わしら言いたいんはな、あんだけよおけ国こえた調べ書きが、守ったるゆうててもな、ことばに、広い力の違いあつたら、ことばに関わり無く同じに扱ってあげますよて言われたかて、足下掘り崩されてるやんか。わしらがやってることは、ことばの、でけへんようになつたらなあかんことのためなんや。

むつつ ことばがぎょうさんあること

世の中に、ことばがぎょうさんあることを、おくにのまつりごとを委ねられた人たちは、ことばをやりとりすんのか、もっとええ世の中にしてこいうことにとつたら、妨げにしかならへんと受け取ってしまいがちや。せやけど、エスペラントなかまにとつたら、ことばがぎょうさんあることは、枯れることもあらへん、欠かすこともでけへん、儲けの湧きだす泉に他ならんのですわ。それは、生き物のいろいろあるひとつひとつとおんなじで、あるというだけでありがたいわあ思うし、守るあたいあるし、支えるあたいあんね。

わしらが言いたいんはやな。すべてのことばを重んじるころがなかつたら、すべてのことばが支えてくれるんちゃうんかつたら、ことばのやりとりをどないしよう、もっと民と国を富ませるように新しく変えていこうと、民にゆだねられた人たちが柱として考えたとしても、それは、世の中のぎょうさんあることばに、殺してまえやと裁きのお墨付きを出すのと同じやゆうことやねん。

わしらがやっていることは、ことばがぎょうさんのままあるためなんや。

ななつ 人の解き放ち

どんなことばも、そのことばをつこおてる人を解き放ちもするし、縛りもすんねん。そのことばをつこてる人の間やつたらやりとりできるし、ほかの人とは、妨げることなるし。よろず世のやりとりのためのものとして考えだされたエスペラントやけどな。人の解き放ちのためやつたう、どでかいわ、ほんまに動いとるわ、ゆう企ては、どんだけあつたか知らんけど、エスペラントはまちがいなく、そのひとつや。言い換えると、生まれたり、育つたり、暮らしていたりするところのならわしの、失うことのでけへんこと、言葉の、失うことのでけへんことを、がっちり根っことしてつけたまんま、せやけどそこに足を引っ張られることなく、ひとびとのなかまに、ひとりの人として、入ることができるように、誰にでも、させてくれる企てということや。

わしらが言いたいのはやな。やからことばしか使われへんのやつたら、己を表した

り、やりとりしたり、仲間作ったり、どないしたかて好きにでけへんやんか。わし
らがやっとすることは、ひとの解き放ちのためなんや。